

# 地誌 第28回「ロシア地誌① -ロシアの生活・極東- 」

○今回のポイント

## 1. ロシアに住む人々の生活

### 多民族からなるロシア

○面積…世界一広い(1709万km<sup>2</sup>)、日本の約45倍

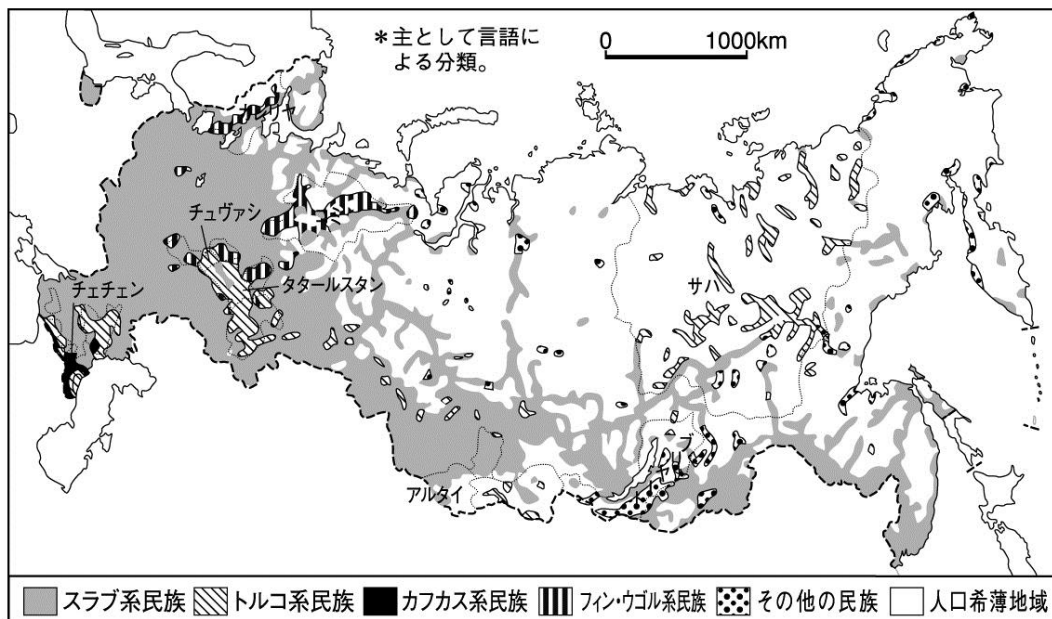
○地域区分

- ・ [①] …ウラル山脈以西
- ・ [②] …ウラル山脈以東
- ・ [③] …サハ共和国とアムール州から東側の極東連邦管区

○ロシアの民族構成(人口約[④]億人)

- ・ 全人口の約80%…ロシア人、ロシア語を話さず、宗教は[⑤]、ウラル山脈以西に住む
- ・ 少数民族…[⑥]に多い
- ⇒ [⑦] : 顔つきが日本人に似る。サケやマスを取り、保存食を発達。日本の生活と共通点。

## ロシアの民族分布



### 経済と生活の混乱をこえて

○1980年代末～90年代はじめ

- ・ [⑧] 経済から [⑨] 経済に急激に転換  
⇒ 経済と社会は混乱。国民の多くは通貨価値の下落と生活物資の不足に苦しむ。
- ・ [⑩] 拡大…大きな富を手に入れる者が現れる一方で、年金生活者は厳しい生活を強いられる。

○1990年代末～

- ・ 経済的混乱がおさまり、欧米諸国などからの投資が増加 ⇒ 国内産業の発達
- ・ 携帯電話、欧米のファッション、ショッピングモールの増加
- ・ 地域間格差… [⑪] などヨーロッパロシアの大都市に比べ、極東ロシアを含む他地域は経済発展など大幅な遅れ。

ソ連の解体とロシアの成立

○1922年 [12] 成立 ⇒ 世界最初の社会主義国

- ・遅れた農業国から[13] 国に転身。 経済発展。強大な軍事力を保持。
- ・一党支配のもとで社会が硬直化。 [14] と効率の低下が顕著。
- ・軍事技術の重工業は発達。食料、消費財の供給は不十分。

○1980年代半ば以降

- ・ [15] (改革)と[16] (情報公開)

⇒計画経済から市場経済へ。軍事費を抑制

⇒国のまとまりが弱体化、91年[17] (エストニア・ラトビア・リトアニア)独立を契機に崩壊

○[18] …民主化と経済再建。資本や技術の導入。

- ・ 8連邦管区 - 83連邦構成主体(州・地方・共和国・自治州・自治管区)
- ・ 共和国や自治州を理念として強い自治権。共和国の半数は大統領制で憲法を持つ。

2. 極東ロシアと私たち

環日本海の交流に向けて

ソ連の崩壊



日本と極東ロシア間の交流が深まりつつある



☆[19] ☆

極東ロシアの資源、日本と韓国の資本と技術、中国東北部・北朝鮮の労働力を補完的に結び付ける



☆[20] (2003) ☆

- ・ コンゴの極東ロシアの経済開発をめぐり協力していくことが合意
- ・ 北方領土問題の解決など難問も残る。

極東ロシアの経済を支える資源

(1)ロシアの気候

- a. 寒冷な[21] がほとんど。特に極東ロシアでは冬の寒さが厳しい。
- b. 北極海に面した地帯は[22] (ET)で寒帯。

(2)資源

- a. [23] …針葉樹林(木材輸出世界一)
- b. 鉱産、林産、水産など天然資源の宝庫
- c. [25] (2009年以降、サハリン東宝の大陸棚産が日本に輸出される。パイプライン計画も進行)



- ・ [24]
- ・ バム(バイカル・アムール鉄道)鉄道
- ・ 川や海の舟運(しゅううん)

※[26] をめぐる権益闘争※

- ・ 東シベリアの原油を東アジアに輸送するパイプラインは、 [27] (教科書 p,231 上記の地図でチェックしよう。バイカル湖の近くにあるよ!!)まで完成
- ・ 中国ルートと太平洋ルートの2案があり、日中両国の綱引きが行われる。